松山 智一

1976 年　岐阜県高山市に生まれる。現在はニューヨーク、ブルックリンを拠点に活動。

2000 年　上智大学経済学部卒業

2002 年　渡米

2004 年　Pratt Institute（ニューヨーク）コミュニケーション・デザイン専攻 卒業

主な個展

2026 年　*Wesselmann x Matsuyama*、Estate of Tom Wesselmann（ニューヨーク、米国）
Homing In Dedicated、Leeahn Gallery（韓国・大邱）
Tomokazu Matsuyama × ISSEY MIYAKE, 特別展示（ISSEY MIYAKE／ニューヨーク、米国）

2025 年　*Liberation Back Home*（SCAD ミュージアム・オブ・アート／サバンナ、ジョージア州、米国）
Tomokazu Matsuyama: Morning Sun（エドワード・ホッパー・ハウス美術館/ニューヨーク、米国）
松山智一展 FIRST LAST（麻布台ヒルズ ギャラリー/東京、日本）
Almine Rech 個展（Frieze Los Angeles/ロサンゼルス、米国）

2024 年　*Mythologiques, 第 60 回ベニス・ビエンナーレ, Hosted by the Contemporary Istanbul Foundation*
（Arsenale、ベニス、イタリア）

2023 年　*MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape*（上海宝龍美術館、上海、中国）
松山智一展：雪月花のとき（弘前れんが倉庫美術館 /弘前、日本）
Episodes Far From Home（Almine Rech Gallery/ロンドン、英国）

2022 年　*Harmless Charm*（Sotheby's/香港）
The Best Part About Us（Kavi Gupta Gallery/シカゴ、米国）

2021 年　*Boom Bye Bye Pain*（KOTARO NUKAGA/東京、日本）
Accountable Nature（龍美術館/重慶、中国）

2020 年　*Accountable Nature*（龍美術館/上海、中国）

2018 年　*No Place Like Home*（Zidoun-Bossuyt Gallery/ルクセンブルク、ルクセンブルク）
Same Same, Different（LUMINE 0/東京、日本）

2017 年　*Baby It's Cold Outside*（Lesley Kehoe Galleries/メルボルン、オーストラリア）
Oh Magic Night（香港コンテポラリーアート財団、HOCA/香港）

2015 年　*Somewhere Here*（Zidoun-Bossuyt Gallery/ルクセンブルク、ルクセンブルク）
Made In 17 Hours（オーストラリア現代美術館/シドニー、オーストラリア）
Come with Me（Gallery Wendi Norris/サンフランシスコ、米国）

2014 年　*Sky Is The Limit*（ハーバーシティー/香港）
Outside Looking In（Lesley Kehoe Gallery/メルボルン、オーストラリア）

2013 年　*The Standard Rendez-vous*（Zidoun Bossuyt Gallery/ルクセンブルク、ルクセンブルク）
Palimpsest（ハーバード大学、ライシャワー研究所/ケンブリッジ、米国）
2012 年　*New Works by Tomokazu Matsuyama*（Mark Moore Gallery/ロサンゼルス、米国）
The Future Is Always Bright（Gallery Wendi Norris/サンフランシスコ、米国）
Thousand Regards（アメリカン大学美術館カッツェン・アートセンター/ワシントン DC、米国）
2011 年　*East Weets Mest*（Joshua Liner Gallery/ニューヨーク、米国）

2010 年　*In Case You're Lost*（Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国）

2009 年　*Glancing at the Twin Peak*（Joshua Liner Gallery/ニューヨーク、米国）

2007 年　*Between the Polar*（Takuro Someya Contemporary Art/千葉、日本）

主なグループ展

2026 年　*Mythos. Von Göttern zu Superheldinnen*（ケムニッツ美術館／ケムニッツ、ドイツ）
Trop mignon ! L'art du bonheur（ルーヴル美術館ランス館／ランス、フランス）
This Is America: Selections from PAMM's Collection（ペレス・アート・ミュージアム／マイアミ、米国）
エミール・ガレ ― ジャポニスムと陶芸の美（下瀬美術館／広島、日本）
Soft Reins: From Degas to Fordjour（Acquavella Galleries／パームビーチ、米国｜Guest Curator：*Tomokazu Matsuyama*）
Life Imitates Art（Anthony Gallery／シカゴ、米国｜Curator：Hank Willis Thomas）

2025 年　*SIMOSE 新コレクション展―松山智一、サム・フォールズ*（下瀬美術館／広島、日本）
Places & Spaces: Curated by Emann Odufu（Friedrichs Pontone／ニューヨーク、米国）

2024 年　*Pop Forever, Tom Wesselmann & …*（フォンダシオン・ルイ・ヴィトン／パリ、フランス）
Blossom: The Tenth Anniversary of the Long Museum（龍美術館/上海、中国）
クロスアート 4 ビロンギング－新しい居場所と手にしたもの－（岐阜県美術館/岐阜、日本）
Go For Kogei!（富山市岩瀬エリア/富山、日本）

2023 年　*ニューホライズン　歴史から未来へ*（アーツ前橋/前橋、日本）
Permanent Collection Exhibition（マイアミ・ペレス美術館/マイアミ、米国）
A Leisurely Stroll - The Tenth Anniversary of The Long Museum（龍美術館/上海、中国）
Sugoi! 200 Years of Japanese Art（カラマズー美術館/ミシガン、米国）
ながくとも四十に足らぬほどにて死なんこそめやすかるべけれ（Die Young, Stay Pretty），Curated by Tomokazu Matsuyama + Carlos Rolon（KOTARO NUKAGA/東京、日本）

2022 年　*オフィシャルコラテラルプロジェクト*（第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ/イスタンブール、トルコ）

2021 年　*Realms of Refuge*（Kavi Gupta Gallery/シカゴ、米国）
Home & Away: Selections From Common Practice（Miles McEnery Gallery/ニューヨーク、米国）
Nature Morte（The Hole/ニューヨーク、米国）

2020 年　*We Used To Gather*（Library Street Collective/デトロイト、米国）

2019 年　*FIXED CONTAINED, Curated by Tomokazu Matsuyama*（KOTARO NUKAGA/東京、日本）

2018 年　*Pardon My Language, Curated by Tomokazu Matsuyama*
（Zidoun-Bossuyt Gallery/ルクセンブルク、ルクセンブルク）

2017 年　*Re:define*（ダラス・コンテポラリー/テキサス、米国）
Forms and Effects: Ukiyo-e to Anime（Ramapo College of New Jersey/ニュージャージー、米国）

2013 年　*Messin' With The Masters*（メサコンテンポラリーアートセンター/アリゾナ、米国）
Edo Pop: The Graphic Impact of Japanese Prints（ジャパン・ソサエティー/ニューヨーク、米国）
Changing World Through Art（Marianne Boesky Gallery/ニューヨーク、米国）

2012 年　*Re:Define*（ゴス・マイケル財団/ テキサス、米国）

2011 年　*untitled*（チベットハウス美術館/ ニューヨーク、米国）
Joy Ride（Spencer Brownstone Gallery/ ニューヨーク、米国）
We Are All One（ニューヨーク工科大学/ニューヨーク、米国）
Changing World Through Art（Haunch of Venison Gallery/ニューヨーク、米国）
The Open Day Book Exhibition（Los Angeles Contemporary Exhibition/ロサンゼルス、米国）

2010 年　*Sugoi-POP! The Influence of Anime and Manga on Contemporary Art*
（ポーツマス美術館/ポーツマス、米国）
Summer Group Exhibition（Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国）
Draw（メキシコ市博物館/メキシコシティ、メキシコ）
Changing the World Through Art（Haunch of Venison Gallery/ニューヨーク、米国）

2009 年　*Lost in Mutation:The Surreal in Contemporary Japanese Art*
（タフツ大学アイデックマン・アートセンター/マサチューセッツ、米国）
Sacred Monsters（タフツ大学アイデックマン・アートセンター/マサチューセッツ、米国）
UNFRAMED 2009（15 Union Square/ニューヨーク、米国）

2008 年　*Winter Group Show*（Frey Norris Gallery/サンフランシスコ、米国）
眼差しと好奇心（ミヅマアートギャラリー/東京、日本）
Night Watch（Takuro Someya Contemporary Art/千葉、日本）
Piece of Peace（パルコ・ギャラリー/東京、日本）

2007 年　*U Can't Touch Dis: The New Asian Art, Zone*（チェルシーアートセンター/ニューヨーク、米国）
Bunkamura アートショー/BAS2007（Bunkamura ギャラリー/東京、日本）
Project To Surface（M127/ニューヨーク、米国）
Natural Drift（タクロウソメヤ・コンテンポラリーアート/千葉、日本）

コレクション

アルベルティーナ美術館（オーストリア）
ロサンゼルス・カウンティ美術館（LACMA）（アメリカ）
サンフランシスコ・アジア美術館（アメリカ）
ブルース美術館（アメリカ）
クリスタル・ブリッジズ・アメリカ美術館（アメリカ）
デ・ヤング美術館（サンフランシスコ美術館）（アメリカ）
インスティテュート・オブ・コンテンポラリー・アート・マイアミ（アメリカ）
サンノゼ美術館（アメリカ）
ペレス美術館マイアミ（アメリカ）
カラマズー美術館（アメリカ）
ミネアポリス美術館（アメリカ）
ピーボディ・エセックス博物館（アメリカ）

SCAD 美術館（アメリカ）
クロッカー美術館（アメリカ）
ノースダコタ美術館（アメリカ）
ウェストバージニア大学（アメリカ）
アンパロ・イ・マヌエル財団（AMMA）（メキシコ）
下瀬美術館（日本）
弘前れんが倉庫美術館（日本）
アーツ前橋（日本）
横浜美術館（日本）
岐阜県美術館（日本）
滋賀県立美術館（日本）
霧島アートの森（日本）
植島美術館（日本）
龍美術館（中国）
宝龍美術館（中国・上海）
徳基美術館（中国）
K11 アート財団（香港）
スペース K ソウル（韓国）
フィッシャー・コレクション（アメリカ）
ディーン・コレクション（アメリカ）
ラ・ナベ・サリナス財団（スペイン）
マイクロソフト・コレクション（アメリカ）
トヨタ自動車株式会社（アメリカ）
シャルジャ銀行コレクション（UAE）
ロイヤル・ファミリー・コレクション（UAE）
ポイント・レオ・エステート（オーストラリア・メルボルン）
ナイキジャパン（日本）
リーバイ・ストラウス ジャパン（日本）
東日本旅客鉄道株式会社／ルミネ（日本）
中日ビル（日本）

パブリック・アート・プロジェクト

2026　タイムズスクエア（ニューヨーク、米国）
Midnight Moment「Morning Again」
デジタルビルボード・インスタレーション

コロンバス・サークル／ニューヨーク、アメリカ
Softly Distance
FIFA ワールドカップ 2026「The Art of the Game」コミッション作品（パブリック・スカルプチャー）

2025　TCL チャイニーズシアター（ロサンゼルス、米国）
LED ビルボードインスタレーション

2024　シカゴ公共図書館（シカゴ、米国）
ミューラルインスタレーション

US OPEN テニス　アーモリー・オフサイト（ニューヨーク、 米国）
屋外彫刻インスタレーション

2023　バワリーミューラル（ニューヨーク、米国）
ミューラルインスタレーション

中日ビルディング（名古屋、日本）
屋内彫刻インスタレーション

SUNY Upstate Medical Institute（ニューヨーク、米国）
ミューラルインスタレーション /RxArt

2022　フラットアイアン・パブリック・プラザ（ニューヨーク、米国）
屋外彫刻インスタレーション

Galataport, Istanbul Biennial Istanbul（イスタンブール、トルコ）
オフィシャルコラテラルプロジェクト / 第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ
屋外彫刻インスタレーション

Yanköşe, Istanbul Biennial Istanbul（イスタンブール、トルコ）
オフィシャルコラテラルプロジェクト / 第 17 回イスタンブール・ビエンナーレ
屋外彫刻インスタレーション

K11 Foundation, K11 MUSEA Hong Kong（香港）
LED ビルボードインスタレーション

jing vision（東京、日本）
LED ビルボードインスタレーション/ jing、原宿駅前

2021　TIPSTAR DOME CHIBA（千葉、日本）
彫刻とミューラルインスタレーション

Ivy ステーション （ロサンゼルス、米国）
屋外彫刻とミューラルインスタレーション/ カルバー・シティ, ロサンゼルス

Guo Hua Financial Center （重慶、中国）
LED ビルボードインスタレーション / 龍美術館

2020　JR 新宿東口駅前広場（東京、日本）
駅前広場監修、彫刻作品恒久設置/ JR 東日本、LUMINE

明治神宮（東京、日本）
野外彫刻インスタレーション/一般社団法人アートパワーズジャパン

2019　North Canon Drive（ビバリーヒルズ、米国）
ミューラルインスタレーション / ビバリーヒルズ市

バワリーミューラル（ニューヨーク、米国）
ミューラルインスタレーション / Goldman Global Arts

2018　渋谷スクランブルスクエア（東京、日本）
　　LED ビルボードインスタレーション/ Peanuts Global Arts、ソニー、Culture Corps

2014　ハーバーシティ（香港）
　　屋外彫刻インスタレーション / ハーバーシティ

レクチャー

2023　“カルチュアルアントレプレナーシップの時代”（京都大学/京都、日本）
2013　“アーティスト・プレゼンテーション”（ハーバード大学/ケンブリッジ、米国）
2012　“アーティスト・プレゼンテーション”（アメリカン大学美術館 カッツェン・アーツ・センター／ワシントン D.C.、米国）
2011　“アーティスト・プレゼンテーション”（Artist Presentation, アジア・ソサエティミュージアム/ニューヨーク）
2007　“APMT”（BankART/ 横浜、日本）
2003　“アーティスト・プレゼンテーション”（Asian American Arts Centre/ニューヨーク、米国）

作品集、展覧会図録

『MATSUYAMA TOMOKAZU FIRST LAST 松山智一作品集』KOTARO NUKAGA（東京）,2025

『Tomokazu Matsuyama Mythologiques』 VFMK（オーストリア）, 2024

『松山智一展 雪月花のとき/MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape』 弘前れんが倉庫美術館（弘前）, 2024

『Boom Bye Bye Pain』 KOTARO NUKAGA（東京）, 2023

『Die Young, Stay Pretty』 KOTARO NUKAGA（東京）, 2023

『情熱大陸 × 松山智一』MBS（大阪）, 2021

『NHK 日曜美術館 CLUSTER 2020』NHK E テレ制作（東京）, 2021

『Tomokazu Matsuyama IN AND OUT』
カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社
「IN」テキスト：山本浩貴
「OUT」テキスト：秋元雄史

『Fixed Contained』 KOTARO NUKAGA（東京）, 2019
テキスト：秋元雄史

『No Place Like Home』
Zidoun-Bossuyt Gallery（ルクセンブルク）, 2018
テキスト Hollis Goodall

『Pardon My Language』
Zidoun-Bossuyt Gallery（ルクセンブルク）, 2018
テキスト：Peter Doroshenko

『Tomokazu Matsuyama』
HOCA Foundation （香港）, 2017
テキスト Rory Padeken and Lauren Every-Wortman

『Tomokazu Matsuyama: A Floating World Redux』
Zidoun-Bossuyt Gallery（ルクセンブルク）, 2016
テキスト Eric Shiner.

『Palimpsest』
Reischauer Institute of Japanese Studies, Harvard University （ケンブリッジ）, 2013
テキスト David L. Howell.

『Thousand Regards』Panorama Publishing（東京）, 2013
テキスト：Yayoi Shionoiri

『Edo Pop: The Graphic Impact of Japanese Prints』
Japan Society（ニューヨーク）, 2013

『Further』Gingko Press（バークレー）, 2010、 pp.156-203

『In Case You're Lost』Frey Norris Gallery（サンフランシスコ）, 2010
テキスト Eric Shiner

『Tomokazu Matsuyama』Panorama Publishing（東京）, 2010
テキスト：Eric Shiner, Alexandra Chang, 窪田研二

『Found Modern Library』Gingko Press（バークレー）, 2007
テキスト：Alexandra Chang